

平成23年度第3回しなの鉄道活性化協議会 議事概要

日時 平成24年2月9日(木)

13時40分～15時40分

場所 上田市 上田駅前ビル「パレオ」

1 開 会

2 あいさつ

しなの鉄道活性化協議会会長

3 会議成立の報告（事務局）

委員26名中17名が出席。出席者が過半数を超えており会議が成立していることを報告。
（協議会規約第6条第2項）

4 協議事項（議長：会長 協議会規約第6条第1項）

（1）平成23年度計画事業 事後評価について（事業報告）

事務局から「資料1」を説明・報告

（質問・意見等）

<議長>

・小諸～軽井沢の増便実証運行については輸送密度の観点からも説明があり、効果があったというような報告もございましたけれども、いかがでございましょうか。

ア 町の議会も増便に関しては歓迎してくれています。御代田とか小諸で議会議員の研修会が行われる際はこれまではバスや自家用車の利用だったのが、自分たちが乗らなければ分からないということで、議員の皆さんも率先してしなの鉄道を利用してくれる形になってきました。まずはしなの鉄道に乗ってみてからものを言ってくださいという風潮が出来上がってきたかと思う。

イ 増便事業によって地域の利便性が非常に図られてきているということで、国の補助金が無くなり、来年度から持ち出し多くなるが是非継続をしていきたいと考えている。

ウ アンケート（資料1-3）で注目したのが、5Pの増発によって得られた効果に対する回答で、いろいろな効果があったということで、利用されているみなさんの声が聞こえて良かった。来年度が3年目ということになるが、補助金が無くなるということで、本市も財政的に厳しいが、3年という実証実験をしっかりとやって、効果

に対する評価をしていかなければならないと考えています。3年というスパンでは（効果が）出てこないというところもあると思うのですが、来年度の予算についても要求をしてありますので、その予算が成立するよう全力で頑張っていきたいと考えています。

<議 長>

- ・来年度は国庫補助金が見つからないということになり、関係の自治体の皆さんには非常にご負担をお掛けすることになります。しなの鉄道としても、相当程度の負担をしても、是非実証運行を継続したいという強い意思でやっておりますので、ご協力をよろしくお願いします。

エ 実証運行で列車の本数が増えることとしなの鉄道さんにおいては、フリーきっぷをいろいろ発売していただいて、大変効果も上がっているということで、これからも取り組みは続けてもらいたいのですが、正規の切符からフリーきっぷ、ものによっては半額位の値段になってしまうので、正規の切符からそちらに流れる収入がどの程度であるか、お分かりになれば教えていただければと思う。

<事務局>

- ・フリーきっぷの販売が伸びた11月をみますと、お客様の数の伸びに比較して運賃収入の伸びがあまり大きくなかったという月もございました。ただ、これまでの累計の数字をみてきますと、フリーきっぷを活用していただく中で、お客様の数もほぼ前年並みあるいは若干ですが、前年を上回るような動きも見えてきていること、運賃収入全体としてもほぼ前年並みあるいは上回るような月もあることなどから、全体として伸びていけばと思う。これからもフリーきっぷを起爆剤としながらしなの鉄道のご利用が増えていけばと考えています。

<議 長>

- ・フリーきっぷの話も含めていろんな企画切符、あるいは企画列車について計画しております。とりわけ昨年度、年間輸送人員が初めて1千万人を切ったことに対して非常に強い危機感を抱いております。これを何とか反転攻勢をして、多くの方に乗っていただくということで、現在社内でも若手中心のチームを作っているいろいろ検討しております。中間報告なりをしたいと思っておりますが、いずれにしましても、しなの鉄道単体で考えていたのでは限界があるということが、議論の中でも出ておまして、地域や関係団体の皆さんと連携をしながらブラッシュアップをしていくという基本的な方向で検討を進めております。特に活性化協議会ということでございますので、是非地域の皆さんの知恵をお借りしながら連携を図っていききたいと考えております。

先日は屋代駅で長野電鉄の屋代線がこの3月一杯で廃止になるということで、長

野電鉄と連携をいたしまして、当社の169系という列車と長野電鉄の2000系を並べて、撮影会を行ったところ、500人という大変多くの方に来ていただいた。今後3月に向けて、長野電鉄とタイアップをして、軽井沢から湯田中まで、屋代駅で乗り継ぐ形で、屋代線廃止に伴う、さよなら列車というものを走らせるという予定もございます。そういう中で、地元の市町村と連携をしながら、いろんなおもてなしができればと考えています。

オ 駅を町の一つの玄関口、活性化の切り口ということで、取り組みを始めています。具体的には昨年末から駅前にしなの鉄道、そして金融機関のご協力をいただきながらイルミネーションの点灯を始めて参りました。また、それに合わせて中心市街地のコミュニティーセンターでミニコンサート等も行って、賑わいを呼び込んでいこうといった取り組みも始めております。また、併せてこれからバラ祭り等の話もあるのですが、駅、しなの鉄道そして町、町内への回遊が出来るような仕組みづくりがこれからも必要であると考えています。とかく宣伝関係が今まで遅れていた。その分の力を入れながら、民の力をいただきながら、取り組みを始めている。そんな状況でございます。

<議 長>

・坂城町は、駅を起爆剤として、駅を拠点として町を活性化したいということで、いろんな仕掛けを考えているようでございます。駅の機能を単なる鉄道のツールだけではなくて、文字通り町のステーションということで、交流機能であるとかそういうものを含めてできれば行政の皆さんには、街づくりの一つの拠点、核として駅を位置づけていただきたい。そのうえでいろんな街づくりをやっていただくということが、町全体の活性化に繋がるという面もあるので、是非協力をお願いしたいということを申し上げておるのですが、町長さんは非常に熱心で、私どもも非常に心強く思っております。

カ 先月のさよなら屋代線イベントを私も見に行ってきたのですが、非常に天気が悪い中、全国から皆さんカメラをぶら下げてたくさん集まったなあと。最近長野電鉄線の絡みか、そのようなイベントが続いて、大変良いことだなあと。ただ、若干宣伝（情報）が遅かった。折角あんなに来ていただいたにも拘らず、駅前の商店街も知っていれば、もっとおもてなしが出来たのではないかと思った。早く情報をもらえればウェルカムステーションでもトン汁でも炊いておもてなしができたのに残念だった。ちょうどそのとき屋代線の歌を歌いたい人がいたが、駅長から上に聞いたら正式に書類を上げろなどと言われてしまったので、急ぎょ市の方を經由してやることになったなど、うまく噛み合わなかったようだ。非常に企画はいいのですけれども、関係機関にも、もうちょっと情報が伝われば、もっとうまくできるのではないかと感じた。

<議 長>

- ・その話を屋代の駅長から聞いて、大変申し訳なく思っております。地域との連携を申し上げているにもかかわらず、そういう情報が行っていなかったということで、今後は是非事前にそういうお話をして、是非その地元の温かいおもてなしというものができるようにご協力をお願いしたいと思っております。これから3月にかけて、いくつかさよなら列車が走るので、是非地元で温かいおもてなしをお願いしたいと思っております。

(2) 軽井沢－小諸間増便実証運行について

事務局から「資料2」を説明

(質問・意見等なし)

(3) 平成24年度 しなの鉄道 生活交通改善事業計画について

事務局から「資料3」を説明

(質問・意見等)

<議 長>

- ・設備投資の国庫補助に係る部分で、この関係については、活性化協議会での議論を踏まえて計画の策定をするという段取りになっているようでございます。ヒアリングはすでに済んでおりますが、一応協議会でご了解をいただいて、正式に国に上げるということでございますので、この際、ご意見などがございましたらよろしくお願いをしたいと思います。

キ 平成24年度の事業につきまして、平原駅の工事の関係がありますが、現地にご案内をいただきまして、図面を見せていただきながら丁寧に説明をしていただきました。私どもも納得いたしましたし、財政当局にも説明できたし、これから議会の方へも自信を持って説明ができるというふうに思います。平成25年度から28年度の計画については、特に異議があるということではございませんけれども、またこういった計画についても時期が来たらそんなようなお答えをいただくと、非常にスムーズかと思っておりますのでお願いしたいと思います。

ケ この計画本体についてはこのとおりでよろしいのではないかと思います。ただ以前から、安全性ということで理解はしているのですが、踏切の待ち時間が長いことについて何とか解消して欲しいという要望が住民からかなり出ております。これについて、安全のためというひとくくりでやられてしまうと、こういう整備事業に町からも負担金を出すということに対しての理解を得ることが難しくなる。専門家としての立場から、より良いものが無いか探して行っていただきたい。

<議 長>

- ・ 軽井沢町さんからは、以前からそういったご要望をいただいております。東京の開かずの踏切のような状況ではないのですけれども、結構待っていると長いというところもあるようでございますので、具体的な議論として、担当の方と進めさせていただきたいと思っております。とりあえずご要望は承ったということでお願いをしたいと思います。

来年度を含めて、5カ年スパンでトータルの話も、それぞれ市町の方へお伺いして説明をして、基本的にはご了解をいただいているということでもよろしいかと思えます。先ほどの説明にもございましたように、大変施設・設備・車両が老朽化しておりますので、40年あるいはそれ以上経過したものがございます。丁寧に手入れはしておりますので、償却年数以上に、もっておりますけれども、潜在的なリスクがあることも間違いないので、安全・安定運行ということは将来に鉄道事業の基本でございますから、それに係るものについては、遅滞なく整備をしていきたいと思っております。ただ、私どもの体力もございますので、できるだけ国庫補助が付くものは極力補助対象にして、事業者なりの負担を軽減して行きたいと考えております。そういう意味で国庫補助に絡んで、市町の協調補助、あるいは県の協調補助などもございますが、そちらの方もできるだけご協力をお願いしたいと思っております。

(4) 平成 24 年度予定事業の概要について

事務局から「資料4」を説明

(質問・意見等)

<議 長>

- ・ 来年度の事業計画については、年度当初の会議でお示しをさせていただき予定ですが、今日の段階で何かあればお願いしたいと思います。

コ しなの鉄道のHPの関係でお願いがあるのですが、先日インバウンドの会議があり、しなの鉄道のHPには日本語表記しかない。何とか日本語以外の表記もやっていただけないかという意見がありましたので、この際お願いを申し上げたいと思っております。

<議 長>

- ・ 現在のわが社のHPは非常に見づらいということから、評判が芳しくない。一千万人以上を目指すという観点から、会社としての意思・考え・戦術が明確にアピールできるようなHPにしたいということで、来年度は全面的にリニューアルをしたいと思います。この中で、英語表記なども含めて検討して参りたいと思っております。

サ この事業計画の中で、2次交通と連携した企画列車とあるが、上田市の方では別所線という鉄道を抱えていたり、谷筋の長いバス路線も事業者でやっているというような状況でございますので、別所線、それからバス交通の関係との連携について、上田市としても一生懸命考えているところでありますので、この辺の連携もよろしくをお願いをしたいと思います。

<議長>

- ・先ほどお話を申し上げましたとおり、現在社内において、どうしたら一人でも多くの方に乗っていただけるのかというプロジェクトがありまして、そこでいろいろ議論をしておりますが、一つの問題として、しなの鉄道線単体で考えても限界があると、人の動きというものは、しなの鉄道だけではなくて、そこから降りてバスに乗るなり、別所線という話もありましたけれども、他の路線に乗るということもありますので、私どもの立場からすると、2次交通という部分も含めた連携というものを具体的に作っていく必要があるのではないかと考えています。そういう意味ではダイヤの整合性ということはもちろんですけども、場合によっては、共通のチケットのようなことができるのか、あるいは2次交通も含めた総合的な時刻表なり、案内なりの仕組みができるのか、ということを含めた議論しております、いわば厚みを付けたうえで、これをみれば、しなの鉄道を降りたらどうなるのか、ということが一目瞭然で分かるようなものを構築できればということも議論しております。是非この趣旨に沿ったものを打ち出していきたいと思っております。

シ 夢のような話なのですけれど、長野電鉄屋代線をしなの鉄道が買収して湯田中まで直通運転して欲しい。

ス 今、小諸が舞台の、アニメーションを放映しています。「あの夏で待っている」という題名ですけど、大分若い方々も、小諸の町に土日、コスプレ姿で訪れている。先日も、土曜日のSBCの0時35分位からやっているのですけれども、当初の場面が中軽井沢のしなの鉄道であった。高校生のラブロマンスみたいなストーリーなのですけれども、中軽井沢の駅から小諸まで来て、小諸が舞台になっておりまして、芦原中学校だとか、懐古園だとか、あるいは商店街だとか、乙女の駅だとか、スポット的に出てくるということなのですけれども、商工会議所としましても、若い人が入ってくる可能性がございますので、秩父でそういう例があったらしいのです。聖地の巡礼のような形で、若い人が訪れるようなので、そういう受け入れ体制を作りたいということで、民間のフィルムコミッションだけではなくて、観光協会と小諸市と、小諸商工会議所で、組織を立ち上げようということで、今は企画段階でございますけれども、組織を立ち上げつつあります。若い人たちがお見えになったときに、地元の人たちがまずそういうアニメを知らなければ困りますし、おもてなしの心で受け入れ体制を作る必要があると考えています。しなの鉄道も逆にそういうもの

にタイアップして、受け入れ体制を作っていくべきではないかと思います。新幹線で軽井沢の駅まで来て、乗り換えて小諸まで来る、あるいは小海線で来る場合は、乙女の駅もこの間出ていたわけですから、一つの巡礼のメッカになる可能性もございます。どういう形でこれから推移していくか分かりませんが、そういったところに注目をしていただきまして、一人でも多くの方が小諸あるいは軽井沢に来るような受け入れ体制を作っていかなければならないと思います。平成 24 年度事業に入り込めるかどうかご検討をしていただきたい。また、グッズの販売が結構見込まれていて、秩父では 1 日に何千個と売れたらしいです。これから、映像に対する商標権等について、来週、市と協会と会議所で東京の制作会社のところに行って確認をしてくるような話をしておりまして、うまくいけばヒットするかもしれない。そんなことも情報の一つとしてご承知いただければありがたいと思います。

<議 長>

- ・しなの鉄道としても非常に注目しています。アニメの世界には聖地巡礼というものがあって、聖地である小諸市なり、軽井沢町を訪れるということが想像されます。徐々に全国的な認知度も上がってきているようで、ヤフーのトップページにも出ておりました。増客推進チームの議論の中にも出ておまして、アニメとのタイアップが何かできないかと検討をしております。

セ 今年 4 月から、街の循環バスを上田市の信州上田医療センターへ接続をしようという取り組みをしております。上田市さんとの定住自立圏形成協定に基づく、医療の充実という観点から取り組んでいます。今ここで申し上げるのは、相反するように聞こえるかもしれませんが、午前一便、午後一便で、病院を結びますが、ただ、利用者の皆さんのニーズからいたしますと、時間的に折り合わないところが出て参ります。行きは循環バスで行き、上田市内の路線バスあるいは市の循環バスを利用し、お買い物などをしていただきながら、しなの鉄道で帰ってきていただく。また、その逆の話も出てくると思います。これは循環バスだけ、または駅だけという単体では完結できないという中では、一見利害が絡むような話になるかもしれませんが、利用者の目線で、相対的な公共交通機関の選択肢の拡大という部分では、これからの宣伝の仕方、どのような告知の仕方をしていくかという問題はあるのですが、課題として取り組んで参りたいと考えております。

ソ 坂城町さんとは循環バスの関係でいろいろと協議をさせていただきまして、坂城町からも直通で入って来るということで、上田市内も少し停留所に止まっていたくということでご協力をいただいております。いずれにしても、定住自立圏ということで、広域的に隣接の町村、市町と連携していくことが大事だと感じております。アニメ等の話ですが、サマーウォーズや戦国 BASARA 等、アニメで観光という線は大変有効かなあとと思いますので、広域の、東信濃という枠組の中で、皆で連携し

てやっっていければなあと感じております。

タ 実証運行の利用状況を見ると、県外者が率として多い。先ほどの小諸のイベントにも、しなの鉄道が旅客を送り込んでいただければ非常にありがたい。県外への PR をよろしく願いしたい。

<議 長>

- ・首都圏での情報発信なりを新年度はできるだけやりたいという話をしました。これまでのしなの鉄道の、県内など、内向きであった営業活動を、首都圏でのキャンペーンなど、外向きに展開し、首都圏等でのわが社の存在感を高め、認知度を上げ、できるだけこちらに来てもらうということに、力を入れていきたいと思っています。

(5) その他

当日配布の販売・利用促進パンフレット等について
事務局から紹介

5 閉 会

以 上